

ミュージカル

アルプスの少女ハイジ

子どもの心にひろがる愛と友情の物語

原作／ヨハンナ・スピリ

演出／源 紀

脚本／田辺 慶

プロデューサー／相羽 源之助

制作／深田 倫紀・川島 清和

TS 劇団東少



●音楽
神尾 憲一

●振付
山本 教子

●美術
園 良昭

●照明
立川 直也

●音響
木谷 晶代

●衣裳
山田 いずみ

●舞台監督
正井 令二

2017年 **2月4日(土)** 14:00開演
(13:15開場)

狛江 エコルマホール

(728席・小田急線：狛江駅北口徒歩1分)
*小田急線ご利用：新宿から約20分、登戸から約3分 *バスご利用：調布駅から約15分

主催：一般財団法人狛江市文化振興事業団 <http://ecorma-hall.jp>

一般発売 **11月10日(木)** 倶楽部E販売 **11月4日(金)**

全席指定 一般 **2,000円** 小学生以下 **500円**

※3歳以上はチケットが必要です。

お申込み・お問合せ エコルマホール ☎03(3430)4106

♪発売初日のエコルマホール窓口でのチケット販売は9:00から、電話予約は13:00から受付いたします。
♪託児サービス(2歳以上の未就学児ひとりにつき1,000円・定員制・公演の2週間前までに要事前予約)をご利用いただけます。詳細はホールまでお問合せ下さい。

プレイガイド **Odakyu OX 狛江店1F 宝くじShop(窓口販売のみ)**
劇団東少 ☎03(3377)7483

子どもの心にひろがる愛と友情の物語

ミュージカル

アルプスの少女ハイジ

かいせつ

この作品の魅力は何といっても、「ハイジ」の生き方です。逆境にもめげず、どんな環境に置かれても対応できる素直さ。そして、純真で明るく自由奔放に生きているハイジを見てると、つい引き込まれてしまうのです。

ハイジはいろんな人たちと出会います。頑固一徹なアルムじいさん、元気いっぱいの子供たち、生きるのに精いっぱいの子供たち、いつも人の輪と幸せを願う牧師、やさしい実業家のゼーゼマン、そこで働く家庭教師で猫ぎらいのロッテンマイエル、幽霊ぎらいでユーモアたっぷりの執事のセバスチャン、そして車椅子で生活するちよっぴり寂しそうなクララ、と多彩です。

この物語の一番の見どころは、ハイジが車椅子のクララを、何とか自分の足で歩かせようとする場面です。ハイジの気持ちがクララに伝わり、クララは歩けるようになるのです。その二人の愛と友情が舞台いっぱいに広がります。

子どもたちに愛と友情の大切さ、ハイジのように「生きているって素晴らしい」と感じてほしい作品です。また、芝居と歌と踊りで構成されたミュージカルなので、子どもから大人まで楽しめる作品となっております。

あらすじ

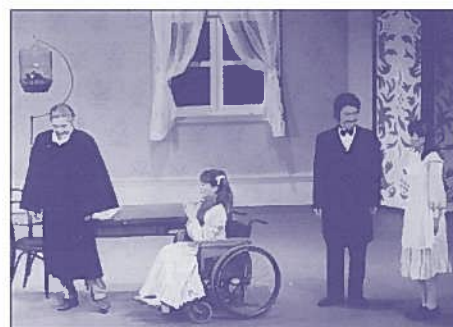
ハイジはデーテおばさんに連れられてアルプスにやってきました。アルムじいさんに預けられたハイジは、部屋の隅にベッドをつくってもらいました。ベッドから見える空には手のとどきそうなたくさんの星、ハイジはうれしくてたまりません。

ハイジは山羊飼いのペーターとすっかり仲良くなり、アルムじいさんとも心を通わすようになりました。そして、自然いっぱいのアルプスを大好きになったハイジ。ところが、何ヶ月かたち、デーテおばさんがハイジをフランクフルトのゼーゼマン家に連れていくためにやってきました。別れることになったハイジとアルムじいさんは、悲しくて胸がはりさけそうでした。

フランクフルトのゼーゼマン家に着いたハイジは、足の不自由なクララや家庭教師のロッテンマイエル、執事のセバスチャンと生活することになりました。都会の生活になれないハイジは失敗の連続で、怖いロッテンマイエルさんにおこられる毎日でした。一方、クララは明るいハイジが大好きになり、ハイジと過ごす毎日は楽しくて仕方ありません。

ところがある日、夜中に幽霊が出るとうわさがたち、正体を確かめると、幽霊だと思っていたのはハイジでした。ハイジはアルプスに帰りたくて、寝ぼけてひとりりで歩き回っていたのです。ゼーゼマンはハイジの気持ちを察して、ハイジをアルプスに帰らせることにし、クララも一緒にアルプスに行かせることにしました。

ふたたび山小屋に帰ってきたハイジを、アルムじいさんはしっかりと抱きしめました。そして、ハイジは「クララが自分の足で立ってほしい」とクララの歩く練習を手伝います。歩くことをあきらめていたクララですが、ハイジに励まされて奇跡的に立ち、歩けるようになったのです。



●劇団東少・受賞のかずかず……厚生省児童福祉文化賞・東京都児童劇団優秀賞・読売児童演劇賞・日本児童演劇脚本賞(創立1949年)

劇団東少の紹介

劇団東少は、1949年創立以来公演活動を続けて半世紀を越えた歴史のある児童演劇の専門劇団です。公演地は全国的であり、北は北海道から南は九州沖縄まで幅広く、公演日数も年間100日を超え15万人以上の動員をしています。特に東京公演では、'85年からスタートした東京日本橋の三越劇場での夏・冬のファミリー劇場は、定期公演になり、一般公演の少ない児童演劇界でホール専用の質の高いプランニングが、美しいステージを創り出しています。又、出演者は数百名のオーディションの中から選ばれた、演技・ダンス・歌に実力のある俳優とベテラン俳優が参加し、大人も子どもも感動できる作品を制作し、公演しています。

劇団東少の作品レパートリーは、心の優しさをメルヘンタッチに描き、現代に通じる愛を芝居・歌・踊りで構成し、涙と笑いと感動を与えられる本格的な創作ファミリーミュージカルとして好評を博しております。